

抄鳴雷

2018.9.30

東京砂漠などと揶揄されるほど都会には緑が少ない。株式会社ゴバイミドリ

(東京都)は、里山

と連携して日本在来の植物で都市に緑を増やす仕事をしている▼会社を立ち上げた宮田生美社長の話を先ごろ聞く機会があった。在来種にこだわるのは、暮らしてから急速に失われる季節感を惜しみ、巡る季節を楽しみたい、との思いからという▼金網でつくった籠に保水性の高い軽量土壌を入れ、多様な植物を植え込む独自の緑化ユニットが売りである。ビルなどの大きな建築プロジェクトへの参画が増えていく中、2007年、那珂川町の林業佐藤昭二さん(57)と取引

を始めた▼佐藤さんの自宅周辺の里山にはノアザミ、クサソテツなど従来の植物が豊富で、当時、ゴバイミドリの関係者はそれを「宝の山」と表現した。佐藤さんは周辺の植物が商品になることが「信じられなかった」という▼里山の植物は緑化ユニットの製造担当者に送られ、製品化されて都内の山種美術館の庭やコーヒーチェーン店「スターバックス」の植栽などに使われてきた。環境保全への配慮もあって、最近では実生苗の採取などに変わってきている▼高根沢町の種苗生産者からは、挿し木で育成したテイカカスラの苗が出荷されている。本県の緑が都会の人々の癒やしになっていると聞くと、なぜか楽しくなる。